

新世界へ加西動物記

サンコウチヨウやハクチヨウの北帰行、ホンドギツネなど「本当に加西？」と思わず驚いてしまう光景を写真に収める玉田尚之さん。野鳥や野生動物たちが、私たちの身の回りに生活している様子を日々追いかけています。野鳥風景写真家として歩み始めたきっかけや1枚の写真に込める思いを伺いました。

兵庫県立フラワーセンター。西日が差し込む園内を歩いていると「チーツ、チツチチーツ」という鳴き声が聞こえました。声の主が居る池に目をやり「あつ、きれいな鳥」と思わず声を上げると、隣にいる大柄で坊主頭の男性は顔をほころばせて「う言いました。「でしよつ？あれがカワセミです。鮮やかな水色の体と長くちがしが特徴なんです。足が短くて、また可愛いんですよ」と笑顔で教えてくれました。

この人こそが、加西で唯一「野鳥風景写真家」として野鳥や野生動物を撮り続けている玉田尚之さんです。取材中も常に目は野鳥の動きを追っており、鳴き声が聞こえると背負っていたカメラケースを放り投げ、寝そべりながら次々とシャッターを切りました。

登山で一目ぼれ

元々は、山岳写真家を目指し、甲斐駒ヶ岳の七丈小屋から風景を撮ったりしていました。野鳥の写真も撮るようになったのは、6年ほど前から。それまでは、野鳥に全く興味がなく名前すら分からなかったといいます。そんな玉田さんが、野鳥を追いかけるきっかけとなった出来事があります。

「2畳分の大きさをイメージし、実際のサイズ感に合わせて撮影。家の壁に飾ってあっても飽きないような、優しい色合いの写真を心掛けています。そして、もうひとつこだわりが。「機械のおかげと言われるのが嫌なので、1960年代のレンズを買いあさってマニュアルで撮っているんです」。

日課は墓参り

「墓石の前で、今日も良い出会いがあったよ。ありがとう、って手を合わせるんです」。日々の感謝が良い作品に出会えるきっかけを与えてくれていると語る玉田さん。そして、より多くの人に写真を見てもらうため、SSP（日本自然科学写真協会）の会員となりました。ここでは、自分の生活スタイルと写真の背景にあるものを大切にしていく人が多いそうです。自身はキツネの家族写真を撮影しており、撮っているのは墓守のキツネだそうです。習性として同じ場所で世代交代しながら生息することに魅力を感じるといい、1枚の写真からストーリーを語り、伝えることを大切にしていきたいと考えています。

SSPでは、全国を巡って写真展を開催しており、加西市で撮影したホンドギツネの写真も展示しています。「写真解説もするので、加西市のPRの場にもなるんです」と写真展の意味や魅力を話してくれました。



木の枝から降りる鳥を狙う。警戒心を解くために、寝そべりながらシャッターをきる

ロケハンが95%

「加西にいるホンドギツネは、キタキツネと違い警戒心が強いんです。100m先でも逃げてしまふ。撮影では近付きすぎないよう気を付けています」とプレッシャーが動物にかかっていないか気を配っています。

撮影時には、事前に下見をし、動きを観察。行動パターンをシュミレーションしたうえで、翌日同じ場所に撮影に赴きます。鳥は賢くて、迷彩服を着て隠れているつもりでも気付かれています。だから、レンズを向けるのは1秒以内。さらに、鳥の動きを想像し、自分の立ち位置をコントロールして撮影に臨むといいます。他にも、2本足が見えるとプレッシャーになるので見えないよう、地べたに寝転がる、かがむ、車の中から撮るなどの工夫をしています。山によく行くのに、虫は苦手。「虫を払ったときにカメラの一部が破損しました」と思わずエピソードを教えてくださいました。

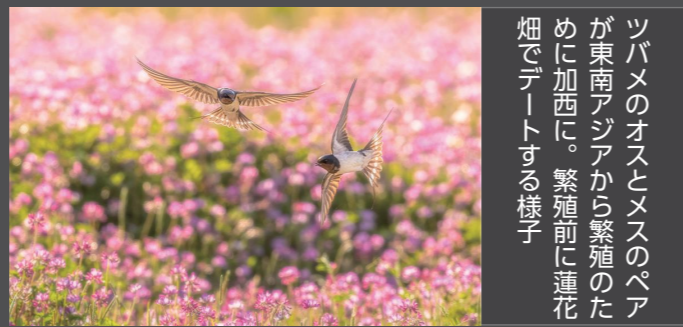
写真から未来を

2年前からフラワーセンターで撮影ボランティアをしており、撮りためた写真の展示や写真の撮り方講座も行っています。この活動を通じ、講演に呼ばれたり、知り合いの家族写真を撮る機会も増えてきました。「写真展も人を育てていかないと続かないと思うんです。撮影のノウハウを伝えて写真ボランティアを増やして加西市を盛り上げていきたい」と今後の目標を語ります。

最後に、「加西にもツルが飛んできますよ。田んぼの2番穂、3番穂を残してくれたらね」と越冬地になる日も近いと微笑みます。フラワーセンター越しの景色は、目に映るままの景色だけではなく加西の未来も捉えています。



子育ての最終仕上げの「追い出し」。子どもたちが立派に成長し、じゃれ合う姿を見つめる母狐



ツバメのオスとメスのペアが東南アジアから繁殖のために加西に。繁殖前に蓮花畑でデートする様子

玉田尚之氏による特別写真展を開催
「キラリびと」とタイアップした写真展を加西市役所1階ロビーで開催します。ぜひ御覧ください。

期間 10月3日~10月31日
時間 8:30~17:15 (平日のみ)

キラリびと vol.17

玉田尚之 Naoyuki Tamada
昭和59年生まれ。医療福祉センターきずな勤務。30歳を過ぎてから写真撮影をはじめ、加西に棲む鳥や動物の日常を撮影している。SSP（一般社団法人日本自然科学写真協会）会員。兵庫県立フラワーセンターの野鳥撮影ボランティアも務める。好きな写真は竹沢うるま。趣味はお菓子作り。

すっきゃ かい 10月

広報

表紙	01
キラリびと 玉田尚之	02
特集	
令和3年度決算	04
市政情報	06
TOPICS	
市制55周年記念事業	06
子育て応援	08
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	20
わくわく子育て情報	25
そうだ!図書館へ行こう	26
かさい消防ニュース	
おくやみ/各種相談	27
とびだせ!かさいっ子	28
加西から広めよう世界の輪 みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク
R4.8.31 現在 (前月比)
人口 / 42,467人 (-15)
男 / 20,819人 (-1) 女 / 21,648人 (-14)
世帯数 / 18,357 (8)
8月の出生数 / 19人 死亡数 / 64人
● 10/12、26 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)